宇都宮大学（栃木県）

世界遺産の日光、最先端テクノポリス、豊かな自然の近くでの研修

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

宇都宮大学は栃木県の中央に位置する宇都宮市にある大学で、6つの学部をはじめ、従来の4つの研究科がひとつになった大学院（地域創生科学研究科）および教職大学院からなる総合大学である。大きな大学ではないので、大学生活の様々な面で学生に対してきめ細やかに対応しており、学部や研究科間で連携した教育・研究活動も行いやすい。

●教員数と学生数（2023年5月1日現在）
教員数 ： 322 名
学生数 ： 5,044 名
（学部 4.069名・大学院 975名）

●学部と研究科
〈データサイエンス経営学部〉
2024年4月に新たに発足。データサイエンスと経営学の実践的知識を習得し、課題解決や意思決定、価値創造に繋げる次世代人材を育成する。

〈地域デザイン科学部〉
2016年4月に新たに発足。地域の魅力を引き出し、より良い地域を形成するために必要な、幅広い知識と専門技術を総合的に学ぶ。

〈国際学部〉
国際的な視野から社会と文化の総合的な教育研究を行い、世界で活躍できる人材の育成を行う。海外からの留学生、海外に留学する学生がともに多い。

〈共同教育学部〉
教員養成に長い歴史を持ち、学校教育をはじめ、多方面で活躍できる人材を養成している。

〈工学部〉
自然環境及び人工環境と人類の共生をめざした先端的研究を行っている。

〈農学部〉
宇都宮高等農林専門学校からの長い伝統を持つ一方、バイオテクノロジーや国際協力などの先端的な研究分野で大きな成果をあげている。

〈地域創生科学研究科〉
従来の国際学研究科、教育学研究科、工学研究科および農学研究科が再編され、2019年４月に発足。持続可能で豊かな地域社会の創生を理念に、博士前期課程に社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻、博士後期課程に先端融合科学専攻を設置している。

〈教職大学院〉
現職教員を主な対象に、専門性のより高い教員養成を目的とした専門職大学院である。

② 国際交流の実績

留学生の数: 227名（28 か国・地域）
大学間・部局間交流協定校の数：87大学
（いずれも2023年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数138人、日研生6人
2022年：留学生数136人、日研生4人
2021年：留学生数140人、日研生4人

④ 地域の特色
本学のある宇都宮市は東京の北100km（新幹線で約50分）に位置している。宇都宮市は人口約52万人で、東には鬼怒川(キヌガワ)、北には那須山地、西には世界遺産の観光地・日光など、美しい環境に恵まれている。日本最古の大学、足利（アシカガ）学校に代表される学問的伝統や、日本で一二を争うイチゴなど農産物の開発、テクノポリスを構成する工業技術など、アカデミズム・先端的科学技術の発信地となっている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的
a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、宇都宮大学留学生・国際交流センターが全学の協力を得て行う研修プログラムで、以下の2つの研修を行う。

【1. 日本の文化や社会についての研究】
研究テーマを設定し、そのテーマに相応しい指導教員の下に研究を行い、その成果を研修論文としてまとめ、発表し、提出する。
なお、マンガやアニメなどのサブカルチャーをテーマとする場合、それを専門とする教員が本学にはいないため、指導は難しい。

【2. 日本語能力の向上】
上記の研究と並行して、日本語の授業や日本語で行われる大学の授業を受講し、自らの日本語能力の向上を図る。

③ 受入定員
10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等
以下の(1)と(2)をともに満たすことが必要である。
（1）専攻分野
派遣元大学において日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。
（2）日本語能力
中上級レベル（日本語能力試験**N2**合格程度）以上の日本語能力を持っていること。

⑤ 達成目標
本研修留学生は、入学の翌年8月のプログラム修了時点で、日本語能力検定試験の**N1**レベル相当の日本語能力を習得し、学部の卒業論文に相当する研修論文を執筆することを目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2024年9月23日　～ 2025年8月31日
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間
2024年10月　～　2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール
9月最終週：渡日（2023年は9月25日～29日）

10月： オリエンテーション
10月新規来日留学生歓迎パーティー

11～12月： 学外研修・高校訪問・地域との交流会など

1月： 研修テーマの構想・中間レポートの作成

2～3月： 自主研修（現地調査など）

4～7月： 研修テーマの発表・研修論文の執筆
七夕の集い（栃木県内の留学生対象）

8月上旬：研修論文発表会・学外研修

8月下旬：帰国（2023年は8月25日～31日）

※上記のスケジュールは変更になる場合もある。

⑨ コースの修了要件
以下（1）～（3）を全て満たすことを修了要件とする。コース修了者には成績証明書に加え、修了証書を与える。
（1）必須（必修）科目4科目（演習2科目を含む）を履修すること
（2）選択科目12科目（本プログラムに関連した内容の科目）を履修すること
（3）研修論文を執筆し、期日までに提出するとともに、研修論文の内容を「日研生研修論文発表会」で発表すること

※なお、研修終了月より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続を踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
・開講部局は留学生・国際交流センター、基盤教育（全学共通の基礎科目）、各学部である。
・授業時間は1回（1コマ）90分、全科目15回である。
・必須（必修）科目を4科目、選択科目を12科目履修する

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
（留学生・国際交流センター開講科目、各2単位）
・日本語・日本文化Ⅰ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。
・日本語・日本文化Ⅱ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。
・日研生特別研究Ⅰ…各自の修了研究の準備を進めるとともに、学外研修などを通じて、日本社会や日本文化に触れる機会を設ける。
・日研生特別研究Ⅱ…定期的に調査研究の進捗状況を報告し合い、その内容について互いに検討し、研修論文の完成を目指す。

本研修留学生は、日本の文化や社会、あるいは日本語に関わるテーマについて、1年間にわたる調査・研究を行い、その成果を日本語でまとめた研修論文（12,000字以上）を執筆する。また「研修論文発表会」でその概要について口頭発表（約10分）を行う。

Ⅱ）選択科目
・選択科目として、基盤教育、国際学部、共同教育学部、留学生・国際交流センター開講科目から、12科目の履修が必要である。以下に挙げるのは履修を推薦する科目の例であるが、日本語能力と各自の研究テーマに応じて他の授業科目を選択できる。どの科目を履修するかについては、各学期の初めに、担当教員や指導教員と相談して決定する。
・本学の授業科目（留学生・国際交流センター開講科目を除く。）の2022年度の時間割とシラバスは、本学ウェブサイト（次頁問合せ先参照）で確認することができる。

〇 選択科目Ⅰ：上級レベル日本語科目の例
（各1単位）
「日本語アカデミック・リーディングⅠ」
「日本語アカデミック・リーディングⅡ」
「日本語アカデミック・ライティング」

〇 選択科目Ⅱ：日本文化関連科目の例
（各2単位）
「日本語論」「日本語史」「日本文化論」
「日本文学概説Ａ」
「多言語コミュニケーション学Ｂ」
「多文化共生コアＢ（異文化間コミュニケーション）」
「Japanese Communication Arts」
「グローバル入門」
「移民と多文化教育」

※年度によって開講科目が変更になる場合がある。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
・栃木県内の名所・旧跡などを見学する学外研修や、留学生を対象とした県内高校の訪問や地域交流団体との交流行事等を予定する。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
・必須科目以外の選択科目として、日本人学生などが履修する正規科目を履修することが可能である。これらの科目を履修することで、日本人学生と共修する機会を得ることができる。

⑪ 指導体制
本コース研修留学生は本学留学生・国際交流センターに所属し、プログラム担当教員と研修論文の指導教員の連携による指導を受ける。

〇プログラム担当教員：
本コースのコーディネーターとして全学的な協力の下に研修留学生が充実した研修を行えるよう指導教員等と連携をとりながら指導・助言を行う。

・飯塚 明子（留学生・国際交流センター准教授）
　専門：国際協力・コミュニティ防災

・2024年4月に更に1名専任教員が着任予定

〇指導教員：
研修留学生は研修テーマに応じて専門分野の教員の研究指導を受けることができる。指導教員は、来学後に研究テーマに基づいて全学の教員の中から決定される。

■宿　舎

原則として、日本語・日本文化研修留学生は、本学留学生寮（国際交流会館）の単身室に入居する。なお、国際交流会館に空室がない場合は、自分で民間アパートを契約し、入居することもある。

〇国際交流会館（単身室）
【家賃】月額 6,500円
【原状回復費】31,900円(※1年間分)

【設備】
A棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ 、ユニットバス（※キッチンは無いため、共用のキッチンを利用する）

C棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ、キッチン（※ユニットバスは無いため、共用のシャワー室を利用する）

※A棟・C棟のどちらに入居することになるかは大学の判断により決定されます。学生が選ぶことはできません。

〇民間アパートに入居する場合、入居当初にかかる諸費用の例

・居室料（単身用・月額）　40,000円前後
・敷金(居室料の1ヶ月分)
・礼金(居室料の1ヶ月分)
・手数料(居室料の1ヶ月分)
・ガス開栓等の手数料　　15,000円前後
・保険料　　4,500円～9,000円 前後

合計　　10万円 ～15万円前後

※エアコンが設置されたアパートは比較的多い。
　その他は来日後、各自で購入等の必要がある。

■修了生へのフォローアップ

研修修了後も、希望者には進路や研究内容等について、メールなどにより、随時相談・助言等を行っている。
〇過去の修了生の進路の例：
・本学大学院進学
・本学以外の日本の大学院進学
・母国での通訳・翻訳者
・母国での大学教員
・日系企業への就職

■問合せ先

＜担当部署＞
宇都宮大学学務部学生支援課留学生・国際交流室

住所：〒321-8505
　　栃木県宇都宮市峰町350

TEL：　+81-28-649-8166（直通）
FAX：　+81-28-649-5117
Email：ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
宇都宮大学ウェブサイト：
　https://www.utsunomiya-u.ac.jp/
宇都宮大学留学生・国際交流センター：
　https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/